

# キャップ、アートに変身

ペットボトルのキャップ約1万1千個でつくった巨大アートが、JR姫新線・本竜野駅2階通路東側で公開されている。リサイクルと、キャップの換金でポリオワクチンを海外の子どもらに贈る運動に取り組む龍野商工会議所青年部の企画。リサイクル業者に渡す前に「姫新線の利用促進に」と思いついた。

## 龍野商議所青年部企画 JR本竜野駅



公開されているペットボトルのキャップアート―JR本竜野駅

## 目標は80万個 リサイクル・運動

大きさは縦2段、横8段で発泡スチロール製のキャップに14色のキャップをはめ込んでいる。テーマは、赤とんぼをあしらった「紅葉が美しい龍野をさっそうと走る姫新線」。

10月下旬に市青少年館で制作され、原画は龍野北高校生が担当。青年部会長の金治秀明さんが「市民や観光客を驚かせる大きな大きなアートを作ろう」と呼びかけた後、公募の小学生42人が仕上げた。

本竜野駅での展示は12月1日まで。キャップは市内の小学校など呼びかけて集めたほか、商工会議所など市内4カ所に10月末までキャップの回収BOXを設置していた。

青年部の目標は80万個の回収。今後回収する分も含めてリサイクル業者へ渡

し、収益の一部がNPO法人・エコキャップ推進協会（横浜市）を通してワクチンの寄付団体に贈られるという。同協会によると、キャップ860個がワクチン1人分に「変身」するとい

（藤井匠）

## 毛鉤羽毛でブローチ

西脇の横山さん、小学校で実演



親子2代にわたって播州毛鉤の伝統を守っている横山さん（左）

播州毛鉤を手がける西脇市黒田庄町の横山禧一さん（70）が、材料の羽毛を使ってアクセサリーを作っている。小学校にも実演指導に出かけ、伝統の妙技で子どもたちを驚かせた。

毛鉤は平安時代の京都で生まれ、江戸時代に入って釣り好きの間で広まったとされる。クジャク、鶏、スズメ、キジなどの鳥の毛を使った播州毛鉤は西脇を代表する工芸品で、全国の太

公望に愛用されている。アクセサリーへの転用



羽毛でつくったブローチ―いずれも西脇市の楠丘小

は、羽毛の鮮やかな色合いと、ふわふわした感じを生かし、ピアスやブローチなどを手作りしている。

9日には横山さんが地元楠丘小学校を訪れ、4年生の36人にブローチづくりを指導。子どもたちは、好きな色の鳥の羽根を組み合わせて留め具に差し込み、世界で一つだけのブローチを仕上げた。藤本伊吹君（9）は、赤、白、緑、黄色をまぜてカラフルさを強調し「自分のかばんに飾りたい」と喜んでいた。

横山さんは10月末に伝統工芸への功労者表彰で訪れた石川県でも、アクセサリーづくりを披露。横山さんは「子どもから大人まで、目を輝かせて楽しんでもらえました。播州毛鉤に息づく技を一人でも多くの人に知ってもらいたい」と話していた。

## 共産・志位委員長 神戸市内で演説

「年内・年明け解散濃厚 共産党の演説会が9日夜、神戸市中央区の神戸マ